

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	中1	普通	家庭		1
教科書			補助教材		
教育図書			マイクロファイバークリーナー		

年間指導目標
家族、家庭に興味、関心を持ち、知識を定着させる。 被服実習を通して、基礎的な技術を身につける。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	家族と家庭生活	家族の形 家庭生活 家族とのかかわり 家族のかかわりとコミュニケーション 家庭と地域のつながり	家庭の中での立場、役割を理解させ、将来に向けて自立を促す
	後半	被服実習	マイクロファイバークリーナーの製作	手縫いの基礎的な技術の定着けがなどがないよう、安全に気をつける
2学期	前半	被服実習	マイクロファイバークリーナーの製作	文化祭に展示できるよう最後の仕上げを行う
	後半	幼児の生活と家族	幼児の心身の発達 幼児の生活の特徴 幼児の生活習慣 幼児の発達と遊び	幼児の生活や特徴について理解を深める。
3学期		わたしたちの住生活	住まいのはたらき 家族の生活と住まい 安全な住まい方の工夫 健康を守る住まい方の工夫	生活の基盤となる住居についての理解を深める

評価方法	1学期 ノート、プリントなどの提出物 作品（マイクロファイバークリーナー）の評価 2学期 期末試験 ノート、プリントなどの提出物 作品（マイクロファイバークリーナー）の評価 3学期 期末試験 ノート、プリントなどの提出物
学習方法	教科書を中心に授業を行い、必要に応じてプリントで補足説明を行いながら理解を深める。 実習は、作業を重ねることで技術を身につける。
注意事項	被服実習時の道具の取り扱い けがなどなく、安全に行えるよう注意する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和2年度	中1	普通	技術家庭科	技術科	1
教科書		補助教材			
教育図書		情報教材 タイプクイック 木材加工実習 手作り箸 ティッシュボックス			

年間指導目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	〔技術〕 「森林破壊を防ぐにはどうしたらよいか」レポート提出 技術と私たちの生活	〔技術〕 レポート課題の提出 構想のたてかたと表し方 立体の構想図 キャビネット図と等角図	〔技術〕 授業再開時にレポート提出 キャビネット図と等角図の理解 木材の性質と特徴 木材の加工について
	後半	〔情報〕 コンピュータの利用	〔情報〕 タイピング練習	〔情報〕 タイピングに慣れさせる ローマ字入力
2学期	前半	〔情報〕 コンピュータとその利用 〔木材加工〕 手作り箸の制作 ティッシュボックスの制作	〔情報〕 入力練習とインターネットを利用した検索 〔木材加工〕 手作り箸の制作 ティッシュボックスの制作	〔情報〕 インターネットを利用することの光と影 〔木材加工〕 電動工具を使うため、安全を確保することを第一に考える。
	後半	〔情報〕 コンピュータの利用	〔情報〕 ワードを利用して、体裁を整える実習	〔情報〕 ローマ字入力を少しでも早くする
3学期		〔木材加工〕 ティッシュボックスの制作 〔情報〕 コンピュータの利用	〔木材加工〕 ティッシュボックスの制作 〔情報〕 入力練習とインターネット検索ソフトの利用(表計算)	〔木材加工〕 電動工具を使うため、安全を確保することを第一に考える。

評価方法	【技術】 第1学期 キャビネット図・等角図の課題テスト はしの評価 第2学期 課題テスト 木材加工品（ティッシュボックス）の確認 第3学期 第三角法の課題テスト 木工作品（ティッシュボックス）の評価 【コンピュータ】 第1学期 コンピュータの構成 タイピングの評価 第2学期 ワードソフトを利用し、課題レポートの評価 第3学期 表計算ソフトを利用した課題の評価
学習方法	教科書と授業、実習により理解を深める
注意事項	コンピュータの取り扱い 木材加工での実習でけがをさせない。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	中2	普通	家庭		1
教科書			補助教材		
教育図書			手軽でばっちりお出かけトート		

年間指導目標
食生活に興味、関心を持ち、知識を定着させる。 被服実習を通して、基礎的な技術を身につける。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	健康と食生活	食事の意味 よい食習慣とよくない食習慣 栄養素の種類とはたらき	食生活に興味を持ち、理解を深める。
	後半	健康と食生活	中学生に必要な栄養 食品に含まれる栄養素	中学生にとって必要な栄養を理解し、日常生活に反映させることができるよう促す。
2学期	前半	献立作成と食品の選択	献立作成 食品の選択と購入	献立作成や、食品購入など、日常的に必要な内容を理解し、活用できるようにする。
	後半	衣生活 被服実習	衣服の着用 衣服の入手 衣服の手入れ ミシンの使い方	衣服についての理解を深める。 実習にスムーズに入れるようにミシンの使い方を徹底させる。
3学期		被服実習	トートバッグの製作	ミシンを使ってトートバッグを完成させる。

評価方法	1学期 期末試験 ノート、プリントなどの提出物 2学期 期末試験 ノート、プリントなどの提出物 3学期 作品（トートバッグ）の評価
学習方法	教科書を中心に授業を行い、必要に応じてプリントで補足説明を行いながら理解を深める。 実習は、作業を重ねることで技術を身につける。
注意事項	被服実習時の道具の取り扱い けがなどなく、安全に行えるよう注意する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	中2	普通	技術家庭科	技術科	1
教科書		補助教材			
教育図書		情報教材 タイプクイック 電気実習 テーブルタップ センサーライト			

年間指導目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	〔技術〕 電気エネルギーの利用	〔技術〕 身の回りのエネルギー エネルギー変換 発電所の仕組みと特徴 電気エネルギーの変換	〔技術〕 発電所の仕組みとエネルギー効率などについて理解させる。
	後半	〔情報〕 コンピュータの利用1	〔情報〕 プログラミングの基礎	〔情報〕 プログラミングについて理解させる
2学期	前半	〔電気〕 テーブルタップの製作 〔技術〕 エネルギーの利用	〔電気実習〕 テーブルタップの製作 〔技術〕 回路図や図記号を覚える オームの法則、電力の計算	〔電気実習〕 ワイヤストリッパー、圧着ペンチの使い方 〔技術〕 回路図が書けるようになる 計算問題ができるようになる
	後半	〔電気〕 Bluetoothスピーカーの製作	〔電気〕 はんだこての使い方	〔電気〕 はんだこての使い方 やけどに注意する。
3学期		〔電気〕 Bluetoothスピーカーの製作 〔情報〕 コンピュータの利用2	〔電気〕 はんだこての使い方 〔情報〕 エクセルで時間割の作る	〔電気〕 Bluetoothスピーカーを完成させる。 〔情報〕 ワープロソフト以外でも時間割を作ることができることを理解する

評価方法	第1学期 プログラミング エネルギー変換についての確認テスト 第2学期 テーブルタップの評価 実習の作品 作業状況 第3学期 作品提出〔Bluetoothスピーカー〕
学習方法	教科書と授業、実習により理解を深める
注意事項	コンピュータの取り扱い はんだこての取り扱い やけどに注意する
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	中3	普通	家庭		0.5
教科書		補助教材			
教育図書		基礎縫い練習マルチポーチ 家庭科ワークノート身近な消費生活と環境（株式会社地域教材社）			

年間指導目標
消費生活、環境問題に関して興味、関心を持ち、知識を定着させる。 被服実習を通して、基礎的な技術を身につける。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	被服実習	基礎縫い練習マルチポーチ	家庭科室の使用法、ミシンの使い方の確認 けがなどがないように、安全に気をつける
	後半	被服実習	基礎縫い練習マルチポーチ	引き続き、けがなどがないように、安全に気をつけながら、作業を進める
2学期	前半	被服実習	基礎縫い練習マルチポーチ	けがなどがないように、安全に気をつける
	後半	消費生活	いろいろな買い物方法 消費者トラブルの解決 買い物の社会的な意味 消費生活と環境とのつながり わたしたちにできること	消費生活に関心を持ち、身近なものとしてとらえ、トラブルの対処法なども理解する
3学期		家庭生活と環境 中学校での家庭分野のまとめ	3年間で学んだことを確認し、振り返る	環境問題への関心、問題意識を持ち、日常生活で自らできることを考える 3年間の学習を振り返り、今後の家庭生活上で実践できるようにしていく

評価方法	1学期 作品（基礎縫い練習マルチポーチ）の評価 2学期 作品（基礎縫い練習マルチポーチ）の評価 3学期 家庭科ワークノート、プリント、課題などの提出物
学習方法	教科書を中心に授業を行い、必要に応じてプリントで補足説明を行いながら理解を深める。 実習は、作業を重ねることで技術を身につける。
注意事項	被服実習時の道具の取り扱い けがなどなく、安全に行えるよう注意する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和2年度	中3	普通	技術家庭科	技術科	0.5
教科書		補助教材			
教育図書		情報教材 タイプクイック プリントマグカップ ミニトマト			

年間指導目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	栽培について 植物の発芽・成長 ミニトマトの育て方	ミニトマトを育てるため、 植物の育ち方について学習する	発芽率を上げることが目標とし、 学習する
	後半	〔技術〕 ミニトマトの栽培	〔技術・情報〕 ミニトマトの教材を持ち帰り自宅 で育てる 生育の記録写真をメールで提出	〔技術・情報〕 観察と記録の習慣
2学期	前半	〔情報〕 プレゼンテーション 〔技術〕 ミニトマト栽培	〔情報〕 情報の発信について班のメンバー で役割分担して発表する 〔技術・情報〕 生育の記録写真をメールで提出	〔情報〕 聞き手にわかりやすく情報を発信 するにはどうするのかを工夫する 〔技術・情報〕 観察と記録の習慣
	後半	〔情報〕 プレゼンテーション	〔情報〕 情報の発信について班のメンバー で役割分担して発表する	〔情報〕 聞き手にわかりやすく情報を発信 するにはどうするのかを工夫する
3学期		〔情報〕 コンピュータの利用3	〔情報〕 ペイントソフトを使って、画像 を編集する	〔情報〕 卒業記念の作品としてマグカッ プを作る 著作権に注意する

評価方法	第1学期 ベビーリーフの栽培記録 レポート 第2学期 プレゼンテーションの評価 第3学期 画像の作品
学習方法	教科書と授業、実習により理解を深める
注意事項	コンピューターームの使い方 ベビーリーフの栽培は、家庭で迷惑にならないようにする 著作権に注意する
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校1年	普通	家庭	家庭基礎	2
教科書		補助教材			
東京書籍「家庭基礎」 自立・共生・創造		東京書籍「スーパーライブビュー」家庭科資料＋食品成分表 東京書籍「家庭基礎 学習ノート」 イージーパンツ			

年間指導目標
生活に必要な衣食住の基本的な知識、技術を習得し、実社会に適應する力も持ち、より健康で豊かな生活が出来るようにすることを目標とする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	家族・社会の共生	第1章 自分らしい人生をつくる 第2章 子どもと共に育つ 第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> 青年期の発達課題を学び、自分の生活や将来について考える。 家族や家庭、それらに関する法律を理解する。現代の家族を取り巻く環境などを考える。 子どもの成長・発達の特徴を知る。 乳幼児の生活習慣の重要性を知り、家族が果たす役割を理解する。 高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための方策を考える。
	後半	被服製作	1 イージーパンツ製作 (ミシンを使用)	<ul style="list-style-type: none"> ミシンの使い方を理解し、縫製作業が出来るようにする。 製作に必要な用具を準備し、安全な使い方が出来るようにする。
2学期	前半	被服製作	2 基礎縫い(手縫い)	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活の自立のために、衣服素材を理解する。 手入れや補修が出来るようにする。
	後半	生活の自立	第5章 食生活をつくる 第6章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康であるためにどのような栄養素をどのくらい食べれば良いか、また栄養素の種類と働きを理解する。 食品の流通経路や安全な食品の鑑別や購入について理解する。 現在の衣生活を考え、既製服の購入、洗濯、保管の仕方を理解する。
3学期		生活の自立	第7章 住生活をつくる 第8章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> 様々な住居を知り、安全で快適な住生活を考える。 情報化社会における消費者の役割や問題を考える。 消費行動が環境に及ぼす影響について考える。

評価方法	1 定期試験 2 授業態度 3 実習態度(作品の評価を含む) 4 提出物(家庭基礎学習ノート、プリント、課題を含む) 5 小テスト
学習方法	教科書、学習ノート、資料集で理解を深める。
注意事項	被服実習の作品を家庭に持ち帰り課題をすることを禁じる。(授業内で作品を完成すること)万が一持ち帰った場合は被服実習の点数は0点とする。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書及び副教材の精読を通じて、知識の定着を図る。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校3年生		情報	社会と情報	2単位
教科書			補助教材		
実教出版 高校社会と情報新訂版			高校社会と情報 新訂版 学習ノート（実教出版） パーフェクトガイド情報（実教出版） Typequick Professionalクラウド版（日本データパシフィック）		

コメントの追加 [h1]:

- ①フォントは 10.5P で入力してください。
- ②スペースが足りなければ改行して行を増やしてください。
- ③そのまま PDF 化するので、見た目を整えてください。
- ④一般に公開するので、誤字脱字等が無いように注意してください。

年間指導目標
情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養うことで、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	第1章 情報社会 1 情報と情報社会 2 社会の変化と個人の責任 3 情報社会の問題 4 個人情報とその保護 第5章 問題解決 4 分析のための工夫 5 関数と統計 6 表とグラフの活用	情報とは何で、私たちの生活にどのような影響を与えるのかを学ぶ。また情報が大きな変化をもたらした情報社会の特徴・問題点・個人の責任や心構えについて学ぶ。 生活に密接する数値データを使ってExcelを活用して分析し、グラフ化する方法を学ぶ	情報や情報社会に興味・関心を持ってもらえるようにする 個人の責任や心構えについては自分の情報端末（スマートフォンなど）の使い方から考えてみると良い。 Excelの使い方はパーフェクトガイド情報を見ながらまずは各自で試行錯誤すること。
	後半	第1章 情報社会 5 メディアとその特徴 6 メディアリテラシー 第2章 コミュニケーション 2 電子メールの利用 3 ネットワーク 第5章 問題解決 7 分析の実際 8 問題解決の実践	メディアとその特徴について学ぶ。また、マスメディアで報じられた情報を様々な視点で分析・評価する方法を学ぶ。 電子メールの特徴や利用する際の注意点について学ぶ。 コンピュータ同士を接続するネットワークについて学ぶ。 作成したグラフからどのように情報を読み取るかを学ぶ。 グラフから読み取れた情報を使い、提示された問題の改善案を検討する。	メディアという言葉は様々な意味を持つので、3つの分類に沿って理解すること。 電子メールはこの先使用する機会があるので、学習後友達同士でやり取りをし、注意点を指摘し合うと良い。 グラフに必要な要素・誤解のない表現方法を理解し、実生活でもグラフから情報を正しく入手できるようにする。 問題解決の手順とその実際を体験し、理解する。
2 学期	前半	第2章 コミュニケーション 4 共通の取り決め 5 インターネットの仕組み 第3章 情報安全 1 個人による安全対策 3 安全のための情報技術 4 暗号化 プログラミングの仕組み	インターネットで安定したサービスを受けるための共通の取り決めや仕組みについて学ぶ。 個人で行うべき安全対策の内容と対処法を学ぶ。 安全対策に使われている情報技術の仕組みを学ぶ。 プログラミングの基礎の基礎となる「順次処理」「条件分岐」「繰り返し」の処理を学ぶ。	インターネットに関連する用語は英語をカタカナにしたもの略語が多いので、元になっている英単語も見ておくことよい。 セキュリティ対策は個人でも行うことが必要だということを理解する。 プログラムに入力する値を変えるとどうなるか、命令の順番を変えるとどうなるかなど、トライアンドエラーを繰り返しながら取り組むと理解が深まる。
	後半	第3章 情報安全 6 知的財産権の概要と産業財産権 7 著作権 第4章 デジタル化 1 デジタル情報の特徴 3 数値や文字の表し方 4 音のデジタル化 5 色のデジタル表現 6 画像のデジタル化	知的財産権と著作権・産業財産権について理解を深める。 アナログとデジタルの違いとその特徴を理解し、様々なメディアのデジタル化の仕組みを学ぶ。 コンピュータ室で様々なメディアのデジタル化の手順、デジタル画像の性質を観察する。	授業内で2進法と16進法について学習するが、数学Aで学習した基数変換（10進数⇔n進数）を理解していることを前提とするので、忘れてしまっている人は復習しておくこと。 デジタル化の手順を実際に見ることで、デジタルデータプラス点・マイナス点を再確認する。
3 学期				

評価方法	講義：50%（筆記試験、提出物等） 実習：50%（課題レポート、作品、実技試験等） ノート提出、授業態度等の平常点算入を含める ※1学期評価については、中間試験（筆記試験のみ100点満点）と期末評価（上記方法にて算出）の平均にて評価する。
学習方法	授業の前に教科書を一読し、キーワードを確認した上で内容を大まかに把握しておくとう理解しやすい（教科書の内容をただ暗記するのではなく、自分やその周りの実生活に置き換えて考えると良い）。 学習ノートは確認問題と練習問題からなり、授業では確認問題の内容に沿って講義を行う。練習問題

	は授業中または宿題で取り組み、理解を深めること（ノート提出の評価ポイントにもなるので、授業で扱った単元については単元終了後なるべく早い段階でやっておくと良い）。
注意事項	教室で授業を行う日とコンピュータ室で実習を行う日に分かれているが、急遽変更する場合もある。どちらの授業にも対応できるように準備しておくこと。 補足事項が他のページに載っていることが多いので、範囲外のページも適宜参照すること。 実習の際、コンピュータ室の保存領域にファイルの容量が大きいものを保存しないこと。ユーザIDとパスワードは他人に伝えず責任を持って管理すること。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	当該範囲について教科書を読み、学習ノートを記入する。 NHK Eテレ高校講座「社会と情報」を視聴し、わかったことや感想を記入する。 自宅にコンピュータまたはタブレットがあり、インターネットに接続できる環境があれば、TYPEQUICKにログインし、タイピング練習をする（ログインの仕方は実習授業の初回に配布した紙を参照すること）。